

呉 茂一（くれ・しげいち）

1、プロフィール

『ギリシア神話』『エジプト詩集』『ギリシア抒情詩』『ホメロス』など多数の名著、名訳で知られる、西洋古典学の開拓者。

<生没>

1897(明治 30)年 12 月 6 日～1977(昭和 52)年 12 月 28 日

<代表作>

『ギリシア神話』『ギリシア抒情詩選』『エジプト詩集』『イーリアス』『オデュッセイアー』『花冠』等々多数。

<青森との関わり>

青森県立青森工業高等学校、東奥学園高等学校の校歌の作詞者

2、作家解説

西洋古典学者。東京生まれ、斎藤茂吉の師呉秀三の長男、東京帝国大学文学部卒、旧制一高、東京大学、名古屋大学教授、在ローマ日本文化会館館長等を歴任。1966 年より上野学園大学教授。主要著作書、翻訳書に『イーリアス』『オデュッセイアー』『黄金のろば』『人生の幸福について』。ギリシア悲劇、喜劇を訳述。『ギリシア』『西洋文化の源をたずねる』『ギリシア悲劇 物語とその世界』を著述。斎藤茂吉の指導で短歌を作り、歌誌アララギに発表している。若き日の呉茂一は茂吉の歌集『あらたま』の署名本を長年大切にしていた。その本を借りた者は、ついに返還することなく、本人の大変な激怒と慨嘆は目を覆うばかりであった。呉茂一は、ピアノの演奏で周囲の人々をびっくりさせ楽しませた。例年開かれる「呉茂一先生を偲ぶ会」は最近、丸の内のパレスホテルに固定された。2006 年 11 月 11 日の会は、生誕百十年、没後 30 年であり、ゆかりの人が多数集まった。呉茂一を知ることのできる書物のうち、田中隆尚著『呉茂一先生』は西洋古典学の開拓者への敬慕の念が切々と伝わってくる。野間祐輔著『呉茂一先生の手紙』は、名著、

名訳を残した西洋古典の碩学の内面を知ることができる。『ギリシア神話』について呉茂一は神々の群集に当惑される方々は、まず美しく美しく、興趣に富む物語を通読し、後に関連事項を解説として取り上げられるのも一方でしょう。それらは人のこころの深みに触れるものとして、読者を失望させはしないだろうと言っている。呉茂一訳詩集は「アトンへの讃歌」から始まり、「わがフランシスカの讃歌（ほめうた）まで」の 432 ページの大冊であり、上田敏の『海潮音』などと並ぶ偉業だと称賛されている。

呉茂一作詞の青森工業高校、東奥学園高校の校歌の直筆の原稿は両校に残されていて、貴重な資料であり、格調高い校歌の作詞者は、日本では数少ないギリシア国の文化勲章の受章者である。